

備後守祖といふ付れありとを納ハ南城代
なり事疑なりといふ一

一城代

川村玄龍姫の孫志田修理下侍二十騎お
臨上秋家より至之元月初行を檢察一
くも後なり慶長六年丑巳月三日上出羽守成
三男清水大藏少輔太指忌甲斐を大將と
て志村伊豆下迄の兵ふふお臨酒
田一責入お殿ふあ人降参にけ給言上殿一

臣を一々々にあ人ともし令降一送参いさ
け時の合戦を亡人志田成弓箭といふ天正
十二年の秋より翌年又年の冬と十六年
の夏元田二郡系勝領之志田氏の子孫松作
仁成松村より一妻一子事ハ被下のちに
記す

一城代

志村伊豆光安等長六年川村志田降参の
後言上殿より至之川山まで二万石を宛納
り言上も言案を領せしれり時一万石と